

ばんけい

教育ほんといっしょ
かわら版こ みち
教育の小径 No.120
2018 October
10月号(一財)総合初等教育研究所参与
前 国士舘大学教授

北 俊夫先生



今月のことば

こりむちゅう
五里霧中

- 立ちこめる霧の中にあるように物事の事情がわからず、判断に迷い、方針や見通しがまったく立たないことをいいます。
- 「むちゅう」は「夢中」ではありません。

子どもを鍛えるということ

- 近年「鍛える」と聞くと、敬遠してしまう傾向がありますが、社会において逞しく生き抜いていくためには、子どもたちを適切に「鍛える」必要があります。
- 学校において子どもを鍛える対象は「心」と「体」のほかに、「頭」があります。「知・徳・体」のすべてにおいて鍛えたいものです。

育てると鍛える

子どもたちが将来活躍する社会は、学校や家庭と違って、教育的に配慮されたり保護されたりすることが少なくなります。そのような環境のなかで自己を発揮しながら逞しく生きていく人間に成長させるためには、どのような育て方が求められるのでしょうか。

近年学校では、子どもたちを優しく育てることが一般的になってきました。「褒めて育てる」と言われるように、子どもを叱ることが少なくなってきました。一人の人間として尊重し、子どもの主張を丁寧に聞き、一人一人の願いに最大限応えようと努力しています。望まないことを無理強いすることも無くなりました。その結果、子どもたちは生き生き伸び伸びと成長しています。

しかし一方で、次のような不安が湧いてきます。例えば、できないことやわからないことがあるとすぐに諦めてしまう。好きなことには取り組むが、辛いことには進んで挑戦しようとしなない。周囲の人のことより自分のことを優先するなどです。さまざまな場面で我慢する、挑戦する、耐える、持続する、協調するなど精神的な弱さが顕在化してきたようにみえます。

このような子どもたちが、中学校に

進学したり、社会に巣立ったりするなど環境が変わったとき、それに適応できるのだろうか、社会の荒波のなかで生きていくことができるのだろうかと心配になります。

「育てる」には、教え導くとか躡けるという意味があります。それに対して「鍛える」とは激しい練習や訓練を重ねて、技術を習熟させたり心身を強固にすることを言います。

教育とは教えることと育てることです。子どもを一人前に育て上げることは学校教育の重要な役割です。ただ育て方には優しさと厳しさがが必要です。温室で育った植物は外の冷気に触れると枯れてしまうことがあります。冷気や強風に耐えることができるようになるためには、徐々にそのような環境に慣れさせる必要があります。

子どもを育てること、鍛えることの意味を改めて考えたいものです。

鍛える対象は「知・徳・体」

子どもを「鍛える」とき、その対象はまず「心」です。子どもの心を耕し鍛えるためには、言葉で叱咤激励するだけでなく、小さな挑戦の場を設け、体験や経験をとおして育てます。特に鍛えたい内容は、忍耐力、根気強さ、自律性や協調性、責任感などです。

今月の
記念日イワシの日
(10月4日)

安くて美味しいイワシの消費拡大を目的に、いわし食用化協会というところが昭和60年(1985年)に制定しました。「1(い)0(わ)4(し)」の語呂合わせです。

そして、「やればできる」「最後まで頑張ってたかった」という達成感や成就感を味わわせることです。身をもって学ばせることがポイントです。道徳科で取り上げる題材と関連づけて指導することもできます。

次に「体」を鍛えます。体育科の時間のほかに、休み時間や放課後の時間を活用します。種目には個人で競うものと集団で戦うものがあります。人間関係を築いたり協調性を養ったりするためには後者が適しています。

運動やスポーツを楽しむことによって、体と心を一体的に鍛えます。一人一人の能力に十分配慮しつつ、適度な競争心をかき立てることも必要です。勝ち負けをつけることが体力向上につながるだけでなく、精神的な側面を鍛える契機にもなるからです。

鍛えるというと、どうしても「心と体」を連想しますが、もうひとつ重視したいことに「頭」があります。頭を鍛えるとは、ものの見方・考え方を身につけ働かせながら学びを深めていくことができるようにすることです。

鍛えられている学級の子どもの発言を聞いていると、話し方や聞き方が違います。目の付けどころや発言内容の構成の仕方が違います。授業において子どもをいかに鍛えるかが、もうひとつの鍛えるポイントです。

どっさどっさ

学級閉鎖になったとき

子どもたちの多くがインフルエンザにかかり、学級が3日間閉鎖になりました。この間、学級担任として行うべきことはどのようなことでしょうか。

インフルエンザは、法定伝染病ですから、当該の子どもは出席停止になります。停止の期間は伝染病の種類によって異なります。罹患した子どもが一定の人数や割合に達すると、校医さんの助言のもと、校長の判断で学級(学年)閉鎖が行われます。

学級担任は、罹患していなければ勤務することになります。いつでも家庭と連絡が取れるように、電話のある職員室にいることが基本です。携帯やメールなどでの体制がとられている場合には教室にいることもできます。1日に1回は連絡を取るようにします。

感染していない子どもには外出することを禁じ、家庭に滞在しているよう指導している学校が多いようです。多くの場合、健康状況を見ながら、プリント学習や読書など家庭学習に取り組むよう指導しています。

元気な子どもは、夕方になると学習塾やお稽古ごとに出かけることがあります。これらの判断は保護者に委ねることになります。勤めなどの関係で、保護者が不在の家庭もあり、子どもだけが在宅している場合もあります。常に保護者と連絡できる体制をとっておくことが求められます。

学級閉鎖が長期に及んだ場合には、授業時数の確保や給食費の返金などの問題が生じます。どのように対応するかは校長の判断によります。

教育の動向

「つながる食育推進事業」報告書

文部科学省は、平成29年度に実施した「つながる食育推進事業」に関する調査研究報告書を公表しています。これは、栄養教諭を中心に、家庭、地域の生産者や関係機関・団体などと連携して取り組んだ食育の成果と課題をとりまとめたものです。

報告書によると、地域の生産者や専門家の協力を得て実施した栽培や調理などの体験活動や、親子で参加した調理実習などが好評だったとしています。保護者と連携した食育推進が成果をあげているようです。一方で、教職員の理解を図り、学校内に食育推進の体制

をつくること、保護者の意識に温度差があることから、保護者の意識を醸成し、行事等への参加を促すことなどが課題として指摘されています。

報告書は「つながる食育」の推進のポイントを次の5点提言しています。

- ・保護者が子どもと一緒に参加する機会をつくること。
- ・食育に関する現状や課題を子ども・家庭・学校が共有すること。
- ・学校と家庭が双方向での情報交換を図ること。
- ・地域の生産者や関係者と子どもが交流する機会をつくること。
- ・学校種を超えた連携、さまざまな世代との交流を図ること。

各学校で食育を推進するに当たってぜひ参考にしたい報告書です。

シリーズ 新学習指導要領のキョウブツト解説 その12

配慮を要する子どもの指導

子どもの多様な発達によって、また発達保障の観点から、特別な配慮を必要とする子どもへの指導が一層重要になっています。

まず、障害のある子どもへの指導です。個々の子どもの障害の種類や程度や状況等に応じた指導内容や指導方法を組織的、計画的に工夫し実施することを基本にします。特別支援学級に在籍する子どもや通級による指導を受けている子どもについては、個別の教育支援計画や指導計画を作成します。

また、新学習指導要領では、各教科等においても障害のある子どもへの配慮事項が示されています。ここに示されている事項は、特別支援学級や特別支援学校だけでなく、通常の学級に在籍する障害のある子どもへの指導にお

いても変わるものではありません。

学級や学年に、海外から帰国した子どもや外国から訪日した子どもが在籍していることもあります。これらの子どものなかには、日本語を十分習得していないこともあり、学校として特別な指導や支援体制をとることが必要になる場合もあります。これらの子どもの多くは海外で豊かな生活経験をしており、それらを生かす場を設けるなどそれぞれの子どものよさや得意分野を生かす取り組みが求められます。

さらに、不登校の子ども、不登校ぎみの子どもには、専門家の助言や援助を得ながら、一人一人に応じた適切な支援が必要です。近年一人親家庭の子どもが増加しており、それらの子どもへの気配りや配慮も求められます。

ポイントは、一人一人に応じた指導を充実させることです。

INFORMATION ぶんけいの冬休み教材

各教科の復習に!



●1、2年(3教科)
16ページ……各300円
●3~6年
24ページ……各310円

国語・算数を重点的に!



●1~6年
16ページ……各220円

+

あわせて使える別冊問題集!



●1~6年
12ページ……各30円

NEW!

編集後記

「教育の小径」は発行して今月号で10年が経ちました。毎月欠かさずとなく小径は続きます。これからもご愛読のほどよろしくお願ひします。また新規の読者様も随時受付中です。ぜひ、下記のメールアドレスよりご連絡お待ちしております。(K記)

企画・編集：ぶんけい教育研究所
発行：株式会社文溪堂
発行日：2018年10月1日